



平成30年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月10日

上場会社名 株式会社イズミ 上場取引所 東
 コード番号 8273 URL http://www.izumi.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山西 泰明
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 三家本 達也 (TEL) 082(264)3211
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月13日 配当支払開始予定日 平成29年11月13日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	359,859	4.5	17,102	△0.9	16,991	△1.6	11,360	271.0
29年2月期第2四半期	344,332	10.9	17,256	16.9	17,266	19.7	3,062	△66.9

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 12,047百万円(239.0%) 29年2月期第2四半期 3,554百万円(△60.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	158.53	—
29年2月期第2四半期	42.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第2四半期	483,522	181,610	35.1
29年2月期	476,885	171,963	33.7

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 169,747百万円 29年2月期 160,566百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	33.00	—	33.00	66.00
30年2月期	—	35.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	748,100	6.5	39,000	9.3	38,700	8.4	26,500	55.7	369.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 一 、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年2月期2Q	71,665,200株	29年2月期	78,861,920株
② 期末自己株式数	30年2月期2Q	4,882株	29年2月期	7,201,306株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年2月期2Q	71,660,460株	29年2月期2Q	71,658,434株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当第2四半期の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期におけるわが国経済は、企業業績の改善が一段と進んだことなどで、景気は着実に回復基調を強めてきました。失業率がほぼ完全雇用となる水準まで低下するなど、タイトな労働環境が継続する一方、賃金の伸びが低水準な状況下で、物価上昇に伴う家計部門の購買力の低下から消費は低迷しました。小売業界においては、消費者の生活防衛意識は一層強まり、販売が低調に推移するなど厳しい状況が続きました。

当社グループにおいては、“お客様のために尽くす”という行動指針のもと、リアル店舗としての付加価値提案力を高めることでお客様満足の追求に努めてまいりました。品質・価格の両面で競争力のある品揃えを迫及するMD戦略“いいものを安く”の領域の拡大を図るとともに、既存領域の掘下げにより顧客価値の創造を推し進めました。

4月20日には、昨年4月に発生した熊本地震により被災し、フロアの一部が休業状態にあった当社の大型ショッピングセンター「ゆめタウンはません（熊本市南区）」が全館の営業を再開しました。また、8月11日に、連結子会社である株式会社ゆめマートの運営する「ゆめマート龍田（熊本市北区、「ゆめマート楠」より改称）」が営業を再開したことで、熊本地震により被災した全店が営業再開を果たしました。

店舗面では、4月に新業態となる大型複合商業施設「LECT（呼称：レクト、広島市西区）」、5月には「ゆめタウン江津（島根県江津市）」を開業し、いずれも好調なスタートを切りました。「LECT」は、生活者にとって自宅、職場や学校とは別の“第3の居場所（サードプレイス）”を目指し、“知・住・食”をメインテーマに据えた3つのゾーンで構成しています。従来の商業施設の枠組みを超えたライフスタイル提案型の複合商業施設であり、当社はスーパーマーケット「ゆめ食品館」をはじめ、フードコート「サウザンドディッシュ」など飲食・食物販といった、主に“食”の分野を担っています。モノからコト、そしてトキを切り口とした付加価値提案力を試す新たな挑戦であり、ここでの新規の客層の取り込みや、得られるナレッジを他店へと展開することで、既存店全体の店舗付加価値を高め、より拡充する戦略的取組みをスタートしました。

また、これまでの新規出店やM&Aにより存在感の高まってきたグループ内の食品スーパー「ゆめマート」等に対して、より実効性の高いマネジメントを行うべく、当社の組織改革では食品スーパーと大型ショッピングセンターの運営を分離したうえで、商圈毎に「中四国マート事業部」及び「九州マート事業部」に再編しました。さらに、食品スーパー子会社群を束ねる「グループSM統括部」を設置しました。これらにより、より地域に密着した食品スーパーとしての最適な店舗オペレーションを行うとともに、グループ内の食品スーパーの事業戦略を統合的に展開する体制を整えました。また、食品スーパー子会社においては、引き続きスケールメリットとドミナント展開のメリットを享受すべく、業務効率の改善に取り組みしました。

これらの結果、当第2四半期の営業成績は以下のとおりとなりました。

	前第2四半期 (H28年3月～H28年8月)	当第2四半期 (H29年3月～H29年8月)	増減（金額）	増減（率）
営業収益	344,332百万円	359,859百万円	15,526百万円	4.5%
営業利益	17,256百万円	17,102百万円	△154百万円	△0.9%
経常利益	17,266百万円	16,991百万円	△275百万円	△1.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,062百万円	11,360百万円	8,297百万円	271.0%

営業成績の主な増減要因

①営業収益及び売上総利益

営業収益のうち、売上高は前年同期比14,659百万円（4.5%）増加し、343,228百万円となりました。また、営業収入は前年同期比866百万円（5.5%）増加し、16,630百万円となりました。これは、主に熊本地震被災による休業店舗の営業再開、前期の新設・増床店舗の通年稼働及び当期の新設店舗による販売増によるものです。

売上総利益は、売上高の増加などで75,733百万円（前年同期比3,290百万円増）となりました。売上高対比では22.1%となり前年同期に比べて0.1ポイント改善しました。これは、当社の直営部門において、原価低減やロスの抑制に努めたことなどによるものです。

②販売費及び一般管理費並びに営業利益

販売費及び一般管理費は、引き続きコストコントロールに努めた一方、熊本地震被災による休業店舗の営業再開、前期の新設・増床店舗の通年稼働及び当期の新設店舗による新規出店コストなどが嵩み、前年同期比4,311百万円(6.1%)増加の75,260百万円となりました。売上高対比では21.9%となり前年同期に比べて0.3ポイント上昇しました。

これらの結果、営業利益は前年同期比154百万円(0.9%)減少の17,102百万円となり、売上高対比は5.0%と前年同期に比べて0.3ポイント低下しました。

③営業外損益及び経常利益

営業外収益は、前年同期に比べて横ばいの942百万円となりました。一方、営業外費用は前年同期比120百万円増加の1,052百万円となりました。

これらの結果、経常利益は前年同期比275百万円(1.6%)減少の16,991百万円となりました。売上高対比は5.0%と前年同期に比べて0.3ポイント低下しました。

④特別損益、法人税等、非支配株主に帰属する四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益

特別利益は、補助金収入137百万円を計上した一方、前期の固定資産売却益346百万円が減少したことなどで、203百万円となりました(前年同期比316百万円の減少)。一方、特別損失は、前期の災害による損失11,364百万円及び減損損失122百万円などが減少し、322百万円となりました(前年同期比11,763百万円の減少)。

法人税等は5,373百万円となりました(前年同期比2,932百万円の増加)。

非支配株主に帰属する四半期純利益は138百万円となりました(前年同期比59百万円の減少)。

これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比8,297百万円(271.0%)増加の11,360百万円となりました。売上高対比は3.3%と前年同期に比べて2.4ポイント上昇しました。

各セグメントの業績

■営業収益

	前第2四半期 (H28年3月～H28年8月)	当第2四半期 (H29年3月～H29年8月)	増減(金額)	増減(率)
小売事業	334,473百万円	350,155百万円	15,682百万円	4.7%
小売周辺事業	46,281百万円	50,151百万円	3,869百万円	8.4%
その他	2,325百万円	2,508百万円	182百万円	7.9%
調整額	△38,747百万円	△42,956百万円	△4,208百万円	—
合計	344,332百万円	359,859百万円	15,526百万円	4.5%

■営業利益

	前第2四半期 (H28年3月～H28年8月)	当第2四半期 (H29年3月～H29年8月)	増減(金額)	増減(率)
小売事業	14,776百万円	14,473百万円	△302百万円	△2.1%
小売周辺事業	2,063百万円	2,333百万円	270百万円	13.1%
その他	475百万円	509百万円	33百万円	7.0%
調整額	△58百万円	△213百万円	△154百万円	—
合計	17,256百万円	17,102百万円	△154百万円	△0.9%

①小売事業

主力の小売事業においては、“お客様のために尽くす”という行動指針のもと、リアル店舗としての付加価値提案力を高めることでお客様満足の追求に努めてまいりました。

4月20日には、昨年4月に発生した熊本地震により被災し、フロアの一部が休業状態にあった当社の大型ショッピング

グセセンター「ゆめタウンはません(熊本市南区)」が全館の営業を再開しました。また、8月11日に、連結子会社である株式会社ゆめマートの運営する「ゆめマート龍田(熊本市北区、「ゆめマート楠」より改称)」が営業を再開したことで、熊本地震により被災した全店が営業再開を果たしました。

商品面では、品質・価格の両面で競争力のある品揃えを迫及するMD戦略“いいものを安く”の領域の拡大を図るとともに、既存領域の掘下げにより顧客価値の創造を推し進めました。

店舗面では、4月に新業態となる大型複合商業施設「LECT(呼称:レクト、広島市西区)」、5月には「ゆめタウン江津(島根県江津市)」を開業し、いずれも好調なスタートを切りました。「LECT」は、生活者にとって自宅、職場や学校とは別の“第3の居場所(サードプレイス)”を目指し、“知・住・食”をメインテーマに据えた3つのゾーンで構成しています。従来の商業施設の枠組みを超えたライフスタイル提案型の複合商業施設であり、当社はスーパーマーケット「ゆめ食品館」をはじめ、フードコート「サウザンドディッシュ」など飲食・食物販といった、主に“食”の分野を担っています。モノからコト、そしてトキを切り口とした付加価値提案力を試す新たな挑戦であり、ここでの新規の客層の取り込みや、得られるナレッジを他店へと展開することで、既存店全体の店舗付加価値を高め、より拡充する戦略的取組みをスタートしました。

また、これまでの新規出店やM&Aにより存在感の高まってきたグループ内の食品スーパー「ゆめマート」等に対して、より実効性の高いマネジメントを行うべく、当社の組織改革では食品スーパーと大型ショッピングセンターの運営を分離したうえで、商圏毎に「中四国マート事業部」及び「九州マート事業部」に再編しました。さらに、食品スーパー子会社群を束ねる「グループSM統括部」を設置しました。これらにより、より地域に密着した食品スーパーとしての最適な店舗オペレーションを行うとともに、グループ内の食品スーパーの事業戦略を統合的に展開する体制を整えました。また、食品スーパー子会社においては、引き続きスケールメリットとドミナント展開のメリットを享受すべく、業務効率の改善に取り組みました。

これらの取り組みに対して販売動向は、春先には、期間の前半は衣食住の各分野で堅調に推移したものの、後半にかけては青果部門における市況の悪化や、鮮魚部門においては全国的なアニサキスによる食中毒報道を受けた買い控えにより、食品分野で販売が鈍化しました。一方、ホワイトデーや母の日などのハレの日需要については強みを発揮しました。また、夏場には、帰省時期に合わせたランドセル等の三世帯需要の早期取り込みや、お中元等のギフト需要が引き続き堅調に推移したほか、広島東洋カープの好調な試合成績とともに関連グッズ販売が好調に推移しました。しかしながら、前期の熊本地震発生後の需要集中などによる前年ハードルの高さに対して、生活スタイルの変化に対応した企画などで集客を図るべく取り組んだものの厳しい状況が続きました。これらの結果、当第2四半期における当社の既存店売上高は前年同期比では1.4%減となりました。

コスト面では、商品仕入において原価低減及びロスの抑制を引き続き推し進め売上総利益率の改善を図りました。また、販売費及び一般管理費については、熊本地震被災による休業店舗の営業再開、前期の新設・増床店舗の通年稼働及び当期の新設店舗による新規出店コストなどが嵩んだ一方、引き続きコストコントロールに努めました。

これらの結果、営業収益は350,155百万円(前年同期比4.7%増)、営業利益は14,473百万円(前年同期比2.1%減)となりました。

②小売周辺事業

小売周辺事業では、当社の「LECT」等の新店における新規会員獲得や、主力店舗の「ゆめタウン」に入居するテナント様をはじめとした外部加盟店での取扱いを拡大することで、電子マネー「ゆめか」やショッピングクレジットの利用を拡大しました。これにより、当社グループにおけるカード戦略の一段の深化を図りました(「ゆめか」の累計発行枚数は、前期末617万枚、当第2四半期末652万枚)。また、お客様の利便性を高めることで利用頻度の向上を図り、レジ業務の生産性改善に繋げるとともに、小売事業への集客及び店舗間の相互送客に寄与しました。

これらの結果、営業収益は50,151百万円(前年同期比8.4%増)、営業利益は2,333百万円(前年同期比13.1%増)となりました。

③その他

卸売事業では、販売が堅調に推移したことに加え、原価低減により収益力が改善しました。また、不動産賃貸事業では安定的な賃料収入を計上しました。

これらの結果、営業収益は2,508百万円(前年同期比7.9%増)、営業利益は509百万円(前年同期比7.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末における資産、負債及び純資産の残高、前期末対比の増減額及び主な増減理由は以下のとおりです。

	前期末 (H29年2月28日)	当第2四半期末 (H29年8月31日)	増減
総資産	476,885百万円	483,522百万円	6,636百万円
負債	304,922百万円	301,911百万円	△3,011百万円
純資産	171,963百万円	181,610百万円	9,647百万円

総資産

- ・当第2四半期の設備投資額は10,885百万円であり、これは主に店舗新設等によるものです。その結果、有形固定資産は、減価償却実施後で2,892百万円増加しました。
- ・受取手形及び売掛金は、クレジット取扱高の増加等により、2,999百万円増加しました。

負債

- ・支払手形及び買掛金は、販売増に伴う仕入れの増加等で5,671百万円増加しました。
- ・流動負債その他は、設備未払金の資金決済等により、8,421百万円減少しました。
- ・短期借入金及び長期借入金は、1,384百万円増加しました。

純資産

- ・利益剰余金は、内部留保が上積みされた一方で、第1四半期に保有自己株式の消却原資に充当したため、9,182百万円減少しました。
- ・自己株式は、7,196千株を消却したこと等により、前期末に比べて18,471百万円減少しました。
- ・これらの結果、自己資本比率は35.1%となり、前期末の33.7%に比べて1.4ポイント上昇しました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

	前第2四半期 (H28年3月～H28年8月)	当第2四半期 (H29年3月～H29年8月)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,349百万円	18,969百万円	620百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,214百万円	△19,041百万円	△8,826百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,705百万円	△1,466百万円	8,239百万円

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・主な収入項目は、税金等調整前四半期純利益16,872百万円、減価償却費7,938百万円及び仕入債務の増加額5,638百万円です。
- ・主な支出項目は、法人税等の支払額7,109百万円及び売上債権の増加額2,998百万円及び災害損失の支払額1,992百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・主な支出項目は、有形固定資産の取得による支出16,367百万円です。これは主に、店舗新設等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・主な収入項目は、短期借入金の純増加額11,660百万円、長期借入れによる収入2,000百万円です。
- ・主な支出項目は、長期借入金の返済による支出12,579百万円、配当金の支払額2,364百万円です。

これらの結果、現金及び現金同等物の残高は、前期末対比1,537百万円減少し、8,804百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想について、現時点においては平成29年4月11日公表の予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,738	8,846
受取手形及び売掛金	33,645	36,645
商品及び製品	27,658	27,249
仕掛品	40	90
原材料及び貯蔵品	480	466
その他	16,516	16,592
貸倒引当金	△1,016	△848
流動資産合計	88,064	89,042
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	156,934	167,852
土地	157,628	158,618
その他(純額)	20,711	11,696
有形固定資産合計	335,274	338,167
無形固定資産		
のれん	6,235	5,735
その他	8,474	8,329
無形固定資産合計	14,709	14,064
投資その他の資産		
その他	39,410	42,792
貸倒引当金	△573	△545
投資その他の資産合計	38,836	42,246
固定資産合計	388,821	394,479
資産合計	476,885	483,522
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,466	36,138
短期借入金	27,291	38,951
1年内返済予定の長期借入金	26,415	23,977
未払法人税等	7,115	5,908
賞与引当金	1,921	2,526
役員賞与引当金	41	17
ポイント引当金	2,418	2,609
商品券回収損失引当金	113	113
災害損失引当金	1,877	—
その他	35,228	26,806
流動負債合計	132,889	137,048
固定負債		
長期借入金	128,210	120,373
役員退職慰労引当金	1,644	1,681
利息返還損失引当金	168	121
退職給付に係る負債	7,429	7,598
資産除去債務	7,565	7,566
その他	27,015	27,521
固定負債合計	172,032	164,863
負債合計	304,922	301,911

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,613	19,613
資本剰余金	22,493	22,247
利益剰余金	136,070	126,888
自己株式	△18,484	△13
株主資本合計	159,693	168,736
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,415	1,488
退職給付に係る調整累計額	△541	△477
その他の包括利益累計額合計	873	1,011
非支配株主持分	11,396	11,863
純資産合計	171,963	181,610
負債純資産合計	476,885	483,522

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	328,569	343,228
売上原価	256,126	267,495
売上総利益	72,442	75,733
営業収入	15,763	16,630
営業総利益	88,206	92,363
販売費及び一般管理費	70,949	75,260
営業利益	17,256	17,102
営業外収益		
受取利息	75	74
仕入割引	152	154
持分法による投資利益	22	37
その他	691	675
営業外収益合計	942	942
営業外費用		
支払利息	728	576
その他	203	476
営業外費用合計	932	1,052
経常利益	17,266	16,991
特別利益		
固定資産売却益	346	1
投資有価証券売却益	56	43
補助金収入	—	137
その他	117	20
特別利益合計	520	203
特別損失		
固定資産売却損	59	31
固定資産除却損	259	110
減損損失	122	—
災害による損失	11,364	115
その他	280	65
特別損失合計	12,086	322
税金等調整前四半期純利益	5,700	16,872
法人税、住民税及び事業税	1,840	5,415
法人税等調整額	600	△41
法人税等合計	2,441	5,373
四半期純利益	3,259	11,498
非支配株主に帰属する四半期純利益	197	138
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,062	11,360

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益	3,259	11,498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	246	484
退職給付に係る調整額	48	64
その他の包括利益合計	294	549
四半期包括利益	3,554	12,047
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,244	11,498
非支配株主に係る四半期包括利益	310	549

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,700	16,872
減価償却費	7,523	7,938
減損損失	122	—
災害損失	11,364	115
のれん償却額	500	525
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	40	△70
受取利息及び受取配当金	△124	△128
支払利息	728	576
持分法による投資損益 (△は益)	△22	△37
補助金収入	—	△137
投資有価証券売却損益 (△は益)	△47	△17
固定資産売却損益 (△は益)	△286	29
固定資産除却損	259	110
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,345	△2,998
たな卸資産の増減額 (△は増加)	611	412
仕入債務の増減額 (△は減少)	698	5,638
その他	1,592	△272
小計	27,315	28,557
利息及び配当金の受取額	128	103
利息の支払額	△745	△593
補助金の受取額	—	4
災害損失の支払額	△1,285	△1,992
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△7,063	△7,109
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,349	18,969
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△11,913	△16,367
有形固定資産の売却による収入	1,563	266
無形固定資産の取得による支出	△479	△504
投資有価証券の取得による支出	△291	△3,248
投資有価証券の売却による収入	192	502
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	26
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△27	△157
その他	741	442
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,214	△19,041
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△13,463	11,660
長期借入れによる収入	18,800	2,000
長期借入金の返済による支出	△12,503	△12,579
自己株式の取得による支出	△1	△1
配当金の支払額	△2,364	△2,364
非支配株主への配当金の支払額	△28	△28
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△46	△95
その他	△96	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,705	△1,466
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,570	△1,537
現金及び現金同等物の期首残高	13,429	10,342
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,859	8,804

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年4月11日開催の取締役会決議に基づき、平成29年4月28日付で、自己株式7,196千株の消却を実施しています。この結果、自己株式が18,473百万円減少し、資本剰余金が295百万円、利益剰余金が18,178百万円それぞれ減少しています。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しています。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	小売事業	小売周辺 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	334,282	8,571	342,854	1,478	344,332	—	344,332
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	190	37,710	37,900	846	38,747	△38,747	—
計	334,473	46,281	380,754	2,325	383,080	△38,747	344,332
セグメント利益	14,776	2,063	16,839	475	17,315	△58	17,256

(注1) 「その他」の区分は、衣料品などの卸売事業等を含んでいます。

(注2) セグメント利益の調整額△58百万円は、セグメント間の未実現利益の調整額等を含んでいます。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	小売事業	小売周辺 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	349,840	8,416	358,256	1,602	359,859	—	359,859
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	315	41,735	42,050	905	42,956	△42,956	—
計	350,155	50,151	400,306	2,508	402,815	△42,956	359,859
セグメント利益	14,473	2,333	16,806	509	17,316	△213	17,102

(注1) 「その他」の区分は、衣料品などの卸売事業等を含んでいます。

(注2) セグメント利益の調整額△213百万円は、セグメント間の未実現利益の調整額等を含んでいます。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、各報告セグメントの実態をよりの確に把握するため、全社と各報告セグメントの測定方法を見直しています。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の方法で作成したものを記載しています。